

第5・6学年 国語科学習指導案

指導者 教諭 山中 尚

研究主題との関わり

- 1 学習の場や活動方法など「学習のための素材」を工夫することで課題への主体的な取り組みが持続できるようにする。
- 2 リーダー学習を進める中で、お互いの考えを交流させることにより、意見をつなぎ合って考えを深めていくことの楽しさが味わえるようにする。

- 1 単元名 5年「気持ちや様子を表す表現に着目して読もう」（本時5／9）
教材名 『カバンの中にかばんを入れて』『手紙』

2 単元設定の理由

本学級の5年生（男子3人女子1人）は、協力して課題に取り組み、学習進度に差はあるが全員が理解しようと努力する。また、国語科の学習に対して以下のような傾向がある。

| | |
|----|--|
| A児 | ・作品(教材)を通読し、全体のあらすじや登場人物の大まかな心情をつかむことができる。 ・「間違い」に対して敏感で、細かな作業まで助言を求めようとする。 |
| B児 | ・時間はかかるがじっくり考えて内容を読み取ったり自分の考えを表現したりできる。 ・自分の考えに自信がもてず、意見交換の際友達の考えに左右されることがある。 |
| C児 | ・国語科が好きで、課題に熱心に取り組み、読解力や表現力が身につけている。 ・自分の思考を更に深めるために、友達同士で意見交換をすることが十分ではない。 |
| D児 | ・学習にまじめに取り、積極的に自分の考えを友達に伝えようと努力する。 ・国語科に苦手意識をもち、助詞の用法や語彙量など表現力に不十分な点が見られる。 |

リーダー学習では、学習リーダーが中心になって学習を進め、互いの考えを発表し合い、ある程度自分たちで学習を進めることができるが、「間違う」ということに対しての不安が大きく、学習の進め方について細かく指示を求めようとする。

本単元では、登場人物の心情や場面についての描写など、表現を味わいながら気持ちの移り変わりを読み取ったり、作品を読むことを通して自分の考えを持ち、更に読書によって考えを広げ深める態度を育てたりすることを主なねらいとしている。また、登場人物の心情を読み取る活動を通して自分の考えと友達の考えを比較して共通点や相違点に気づき意見を交換し合うことで学習内容を一層深めていくこともできる。このことは「思いをつなぎ合う」力を育成することにもなる。

そこで指導にあたっては次の点に留意したい。

・登場人物や場面を紹介するポスターやパンフレットを作成したり後日談を考えたりすることを目標にして、意欲的に学習に取り組めるようにする。【学習素材の工夫】

・「かばん」の発言とそれに対する主人公の心情を表している表現に着目することで、主人公の心の移り変わりがつかめるようにする。

・主人公の行動に対して感想を持つことで主人公の心情や性格について深く考えることができるようにする。

・面白い表現や気に入った表現を書き留め、自分の表現活動に生かそうという意欲が持てるようにする。

・主人公の心情や性格についてお互いの考えを交流させることで、多様な考え方があることを知ると同時に、物語を読むことの楽しさが味わえるようにする。【伝え合う力を高める場の充実】

・事前にリーダー役の子と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。【リーダー学習の定着】

3 目標

- 物語のおもしろさを知り、読書をする意欲が持てるようになる。
- 読み取った内容から自分の考えをまとめられるようになる。
- 友達と自分の考えとを比べながら聞き、共通点や相違点に気づき整理できるようになる。
- 場面の情景や登場人物の行動・心情を表す表現に着目して、主人公の心情とその変化を読み取れるようになる。

- 心情や場面についての描写など、おもしろい表現を味わいながら読めるようになる。
- 意味や読みの分からない語句について辞書等を使って調べ、理解することができる。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|-----------------|--|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・物語を楽しみながら、読もうとしている。 |
| 書く能力 | ・物語や登場人物についての考えをノートにまとめることができる。 |
| 話す・聞く能力 | ・友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理することができる。 |
| 読む能力 | ・叙述に着目して、場面の情景や登場人物の様子をつかんでいる。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ・意味や読みの分からない語句について理解する。 |

5 指導計画及び評価 (総時数9時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 教師の支援 |
|---------|---|---|---|
| 第一 次 | 1 ○題名や挿し絵から物語の内容を想像する。 ○「かばんの中にかばんを入れて」の範読を聞き、分からない語句をチェックする。 | (言)意味や読みの分からない語句について理解する。 (聞)友達の感想が自分と同じかどうか考えながら聞く (関)物語を楽しみながら読むための課題を持つ。 | ・感想を書くきっかけがつかめないうちには「驚き」「疑問」「自分との比較」など具体的に考えるようにさせる。(B児・D児) ・単元の目標を達成するための課題が持てるように助言する。 |
| | 2 ○感想をもとに課題を決め、学習計画を立てる。 | | |
| 第二 次 | 3 ○全文を通読し、4つの場面に分け、大まかな内容を書く。 ○第1・2場面を読み、かばん店や主人公の様子を読み取る。 | (読・書)場面の情景や登場人物の行動・心情を表す表現に着目して、主人公の心情とその変化を読み取り、自分なりの表現でノートにまとめる。 | ・登場人物や場面の様子を意識できるように、登場人物や地の文を分担して音読させる。 ・情景や心情を表すために着目した表現に、登場人物ごとに区別できるような線を引く。 (B児・D児) |
| | 4 ○おしゃべりするトランクと主人公の心情を読み取る。 ○主人公の心情の変化について読み取ったことを発表し交流する。 | (話・聞)友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理する。 (言)意味や読みの分からない語句について理解する。 | ・友達の発表を聞いて、着目しなかった表現に線を引いたり、異なる考えをノートにメモさせたりする。(B児) |
| | 5 本時 ○かばんが売れて花を買うまでの主人公の心情の変化を読み取る。 | | ・教科書の例を参考にしてノートがまとめられるように助言する。 |
| | 6 ○希望に満ちて故郷に向かう列車に乗った主人公の心情を読み取る。 | | |
| | 7 ○登場人物の気持ちを想像しながら、登場人物や場面の紹介文を書いたり続編を書いたりする。 | (読・書)情景のイメージを豊かに広げ、登場人物の心情を考えながら書く。 | ・前時までに読み取った主人公の心情をもとに、将来の店の様子を考えながら後日談を書くように勧める。(B児・D児) |
| 第三 次 | 8 ○「手紙」の全文を通読し、感想を書いて発表し、交流する。 | (書・話)ノートにまとめた感想をもとに発表しあひお互いの考えを交流させる。 | ・主人公の心情を表す叙述に線を引き、それについて自分がどのように思うかをノートに書かせる。 (B児・D児) |
| | 9 | (関)読書意欲を持ち、進んで読書範囲を広げようとしている。 | |

研究主題との関わり

- 1 学習の場や活動方法など「学習のための素材」を工夫することで課題への主体的な取り組みが持続できるようにする。
- 2 リーダー学習を進める中で、お互いの考えを交流させることにより、意見をつなぎ合って考えを深めていくことの楽しさが味わえるようにする。

- 1 単元名 6年「すぐれた表現を味わおう」（本時5／9）
教材名 『Oじいさんのチェロ』『冬きたりなば』

2 単元設定の理由

本学級の6年生は、男子3人である。学習においてはお互いの考えを述べ合い、協力して課題に取り組むことができる。学習進度に差はあるが全員が理解しようと努力する。また、国語科の学習に対して以下のような意識を持っている。

| | |
|----|--|
| A児 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品(教材)を通読し、全体のあらすじや登場人物の大まかな心情をつかむことができる。 ・情景や人物描写に着目して登場人物の心情を考えることに苦手意識を持っている。 |
| B児 | <ul style="list-style-type: none"> ・情景や人物描写に着目して登場人物の心情について考えることができる。 ・登場人物の心情を想像しながら表情豊かに音読することが苦手である。 |
| C児 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習にまじめに取り、積極的に自分の考えを友達に伝えようと努力する。 ・登場人物の心情と根拠になる叙述の関係が十分に読みとれないことが多い。 |

また、リーダー学習では、学習リーダーが中心になって学習を進め、互いの考えを発表し合い、自分たちで学習を進めることができる。

本単元は、文学的文章を題材としており、「場面の情景や中心となる人物の様子や心情を読み味わう」ことを主なねらいとしている。よって、読解する能力と読み物に興味を持ち、幅広く読書しようとする態度の育成を図ることができる。また、登場人物の心情を読み取る活動を通して自分の考えと友達の考えを比較して共通点や相違点に気づき意見を交換し合うことで学習内容を一層深めていくこともできる。このことは「思いをつなぎ合う」力を育成することにもなる。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

・主人公が絵を贈ったことへの「お礼の手紙」を書いたり後日談を考えたりすることを目標にして、意欲的に学習に取り組めるようにする。【学習素材の工夫】

・「Oじいさん」の行動とそれに対する主人公の心情を表している表現に着目することで、主人公の心の移り変わりがつかめるようにする。

・主人公の心の移り変わりについて深く考えることで作品の主題について自分なりの考えが持てるようにする。

・面白い表現や気に入った表現を書き留め、自分の表現活動に生かそうという意欲が持てるようにする。

・主人公の心情の変化や作品の主題についてお互いの考えを交流させることで、多様な考え方があることを知ると同時に、物語を読むことの楽しさが味わえるようにする。【伝え合う力を高める場の充実】

・事前にリーダー役の子と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。【リーダー学習の定着】

3 目標

- 進んで優れた叙述を味わいながら物語を読み取っていこうとする意欲を持てるようにする。
- 登場人物の心の変化を読み取ってノートにまとめられるようにする。
- 友達の考えと自分の考えとを比べながら聞き、共通点や相違点に気づくことができるようになる。
- 場面の情景や人物の行動・心情を表す言葉や表現に着目して人物の心の変化を読み取り、作品の主題をつかむことができる。
- 意味や読みの分からない語句について辞書等を使って調べ、理解することができる。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|-----------------|--|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・進んで優れた叙述を味わいながら物語を読み取っていきこうとする。 |
| 書く能力 | ・登場人物の心の変化を読み取ってノートにまとめられるようにする。 |
| 話す・聞く能力 | ・友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理することができる。 |
| 読む能力 | ・場面の情景や人物の行動・心情を表す言葉や表現に着目して、人物の心の変化を読み取り、作品の主題をつかむ。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ・意味の分からない語句について辞書を使って調べることができる。 |

5 指導計画及び評価 (総時数 9時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 教師の支援 |
|---------|--|---|---|
| 第一 次 | 1 ○題名や挿し絵から物語の内容を想像する。 | (読)「わたし」の語りという形で進む作品であることや舞台となる町や登場人物の大まかな様子について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・4月に学習した「この1年の国語学習の目標」を振り返り、自分なりに課題意識が持てるようにする。 ・感想を書くきっかけがつかめない児童には「驚き」「疑問」「自分との比較」など具体的に考えるようにさせる。(C児) |
| | 2 ○「Oじいさんのチェロ」のおおまかな内容をつかむ。 ・物語の場面(時代) ・登場人物の様子 ○感想をもとに課題を決め、学習計画を立てる。 | (言)意味や読みの分からない語句について理解する。 (聞)友達の感想が自分と同じかどうか考えながら聞く (関)物語を楽しみながら読むための課題を持つ。 | |
| 第二 次 | 3 ○はじめのころの「Oじいさん」に対する「わたし」や「パパやママ」の気持ちを読み取る。 | (言・関)意味の分からない語句について辞書を使って調べることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中心となる登場人物の様子や心情の変化について考えることを通して「情景や人物の行動、心情の表現に着目」することが物語の読み取りのポイントであることを理解できるようにする。(C児) ・メモ書き簡条書きを多用して、思い浮かんだことを見える形で残して、それを手がかりにして自分の考えが持てるようにする。 |
| | 4 ○広場で演奏を聴いたときの「わたし」の気持ちの変化を読み取る。 | (読・書)読み取った、登場人物の「Oじいさん」に対する気持ちや「わたし」の心情の変化についてノートにまとめることができる。 | |
| | 5 (本時) ○絵を描いてドアの下から差し入れたときの「わたし」の気持ちや態度の変化を読み取り、Oじいさんが危険を冒して演奏を続ける理由を推測する。 | (話・聞)読み取った、登場人物の「Oじいさん」に対する気持ちや「わたし」の心情の変化について発表することができる。 | |
| | 6 ○主人公の「わたし」がいたいことを考える。 ・物語の主題 | (書)根拠となる文を引用しながら物語の主題をまとめることができる。 | |
| | 7 ○登場人物の気持ちを想像しながら、お礼の手紙を書いたり続編を書いたりする。 | (読・書)情景のイメージを豊かに広げ、登場人物の心情を考えながら書く。 | ・命の危険を冒して演奏するときの気持ちを想像しながら手紙を書くように助言する。(C児) |
| 第三 次 | 8 ○「冬きたりなば」のおもしろさについて話し合う。 | (関・話・聞)友達の発表を聞いて、進んで自分の考えを話したり、友達の発表を聞いたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・短編小説のおもしろさや作品の紹介をして、興味が持てるようにする。 ・自分が興味を持っていることに関連のある本を探すようにする。 |
| | 9 ○他のショートショートの内容を読み取る。 | (関)自分で進んで本を探して読む。 | |

7 本時案 (第二次 5/9))

(1) 主眼 主人公の心情を表す叙述や喋る「かばん」との会話に着目することを通して、主人公の心の変化を読み取ることができる。

(2) 準備 ホワイトボード・マーカー、範読C.D.、学習進行表

(3) 指導過程

| | | |
|-------|--|---|
| 前時の学習 | 主人公が喋る「かばん」とのやりとりから旅行に出る気になるまでの心の動きを読み取った。 | |
| | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L) | 学習活動・内容 |
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> 情景や人物の行動、心情を表す言葉や表現に着目して、主人公の心の変化を読み取ることを確認する。 | <p>1 前時までの学習内容を確認して本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">かばんを売り切って、花を買うまでの一郎さんの心の動きをとらえよう。</div> |
| ／ | <p>L 第3場面を音読しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読みながら主人公の心情について記述された部分に傍線を引かせるなどして見落とさないように工夫させる。 | <p>2 第3場面(P22L12～P28L6)を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読 |
| かんがえる | <p>L 一郎さんの心の変化をホワイトボードに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値は概ね0～10ポイントの範囲で表記させる。 心の移り変わりをうまく捉えられない児童に対しては「ヒントカード」を使い、時間の流れに従って場面が5～6に区切られることを助言する。 | <p>3 一郎さんの心情の変化を読み取り、数値で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商売の自覚のないのん気な旅人 現実に引き戻される憂鬱 初営業を前にした不安 「かばん」の暗示による自信回復 完売の満足感 かばん作り以外のことに目を向ける余裕 花へ対する思い |
| ／ | <p>○ 読み取った一郎さんの心と数値を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠となる記述部分を示しながら発表させる。(評価ア 発表) | <p>4 読み取った心情と数値を発表し交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠となる記述を示しての発表 数値の違いに対する疑問や意見 友達の意見を聞いての新たな発見 |
| つなぎあう | | |
| ／ | <p>L 学習したことをもとに、一郎さんの心の動きをノートにまとめましょう。</p> <p>(評価イ ノート)</p> | <p>5 一郎さんの心の動きをノートにまとめる。</p> |
| まとめ | | |
| 次時の学習 | 希望に満ちて、北へ向かう列車に乗った一郎さんの心情を読み取る。 | |

(4) 評価

ア (話・聞) : 友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点について質問や感想、意見が言えたか。

イ (読) : 一郎さんの行動・心情を表す叙述に着目して、一郎さんの心情とその変化を読み取り、自分なりの表現でノートにまとめることができたか。

7 本時案 (第二次 5/9))

- (1) 主眼 主人公「わたし」の心情や行動を表す叙述に着目することを通して、絵を描いてドアの下から差し入れたときの「わたし」の気持ちや態度の変化を読み取ることができる。
- (2) 準備 ホワイトボード・マーカー、範読C.D.、学習進行表
- (3) 指導過程

| | | | |
|-------|--|---|--|
| 前時の学習 | 広場で「Oじいさん」の演奏を聞いたときの「わたし」の気持ちの変化を読み取った。 | | |
| | 学習活動・内容 | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L) | |
| | 1 前時までの学習内容を確認して本時の課題をつかむ。 | L 昨日学習した「わたし」の心の変化を確認しましょう。 | かんがえる／ つなぎあう ／ まとめる／ つかむ／ かんがえる |
| | 「わたし」はどんな気持ちで「Oじいさん」の絵を描いたか考えよう。 | | |
| | 2 「わたし」がどんな気持ちで「Oじいさん」の絵を描いたかを発表し交流する。 ・からかったことに対する反省の気持ち ・チェロを失ったことに対する励ましの気持ち ・市街戦(内戦)に滅入っている私たちを勇気づけてくれたことへの感謝の気持ち | ○ 「わたし」はどんな気持ちで「Oじいさん」の絵を描いたと思うか、お互いの考えを発表しましょう。 ・前時の後半に自分の考えをホワイトボードに書かせておく。 ・自分の考えと根拠となる表現を結びつけながら考えるようにさせる。 ・紙袋を叩きつぶして逃げていたころの表現と比べながら、表現の変化を味わわせる。 ・大好きなパパの道具を使っているところに着目して考えさせる。 (評価ア 発表) | |
| | 3 絵を描いたときの「わたし」の気持ちをノートにまとめる。 | ○ 友達の考えも参考にしながら、絵を描いたときの私の気持ちをノートにまとめましょう。 (評価イ ノート) | |
| | 「Oじいさん」がハーモニカを使って演奏を続けた理由を考えよう。 | | |
| | 4 「Oじいさん」がハーモニカを使って演奏を続けた理由を考え、ノートにまとめる。 | L 新しい課題を読んで、ノートに写しましょう。 L 先生が来るまで自分の考えをノートにまとめましょう。 | |
| | 5 学習を振り返る。 | ・「わたし」の気持ちの確認と、新しい課題の補足説明をする。 | |
| 次時の学習 | 演奏を続ける「Oじいさん」と、それを見守る「わたし」の気持ちを考える。 | | |

(4) 評価

- ア (話・聞) : 友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、絵を描いて差し入れたときの「わたし」の心の共通点や相違点について質問や感想、意見が言えたか。
- イ (書) : 絵を描いて差し入れたときの「わたし」の心情についてノートにまとめることができたか。

第5・6学年 国語科学習指導案

指導者 教諭 堀田 浩一

研究主題との関わり

リーダー学習を進める中で、お互いの考えを交流させることにより、意見をつなぎ合って考えを深めていくことの楽しさが味わえるようにする。

1 単元名 5年「生活の中の言葉を見つめよう（方言を考えよう）」（本時 4／7）

2 単元設定の理由

本学級の5年生は、男子3人である。学習においてはお互いの考えを述べ合い、協力して課題に取り組むことができる。学習進度に差はあるが全員が理解しようと努力する。また、国語科の学習では、文章や言語による表現活動や調べ学習に対して以下のような意識を持っている。

| | |
|----|---|
| A児 | 国語の学習に興味、関心が高く、特に話したり聞いたりする力に優れている。 調べ学習が好きで、調べたことを文章にまとめたり、自分の考えを書いたりできる。 |
| B児 | 分からないことを調べ「知ろう」という知識欲が旺盛で調べ学習に意欲的に取り組む。 苦手意識はないが自分の思いを文章で表現することには努力を要する。 |
| C児 | 自分の思いを文章で表現することは苦手だが、落ち着いて考えたり、内容を正しく読み取ったりはできる。分からないことを自分の手で調べて解決するのが苦手。 |

また、リーダー学習では、学習リーダーが中心になって学習を進め、互いの考えを発表し合い、自分たちで学習を進めることができるようになってきた。

本教材では、身近に使われている方言と共通語に目を向け、その違いを理解するとともに、それぞれのよさについて考え、場に応じて使い分けられるようになること、並びに、言葉を意識して場や相手に応じた言葉遣いをしていこうとする態度を育てることを主なねらいとしている。このことは、言葉を適切に使い自分の考えを相手によりよく分かるように伝えることのできる「思いをつなぎ合う児童の育成」のために必要な力であると考えられる。

そこで指導にあたっては次の点に留意したい。

- ・自分たちの地域の方言を集め、「周防大島方言辞典」の作成を目標にすることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。【学習素材の工夫】
- ・特定の言葉の方言地図を作る活動を通して、言い方の種類や分布状況が視覚的に捉えられるようにする。【学習素材の工夫】
- ・方言地図を作り共通語と比べる活動を通して、方言の持つよさに気づかせるとともに、日常の学習や生活の中での言葉遣いについて振り返り、「言葉」を意識できるようにする。
- ・集めた地域の方言の説明文を発表し合い、感想や意見を交流させて説明文を推敲することで、よりよい辞典を作ろうという意欲が持てるようにする。【伝え合う力を高める場の充実】
- ・事前にリーダー役の児童と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。【リーダー学習の定着】

3 目標

- 地域の方言のよさを感じ取り、進んで生活の中から方言を見つめ直すことができる。
- 段落や章の構成、見出しなどに注目して、方言と共通語の違いや方言のよさを読み取ることができる。
- 地域の方言について調べ、説明するための文章を書くことができる。
- 自分の考えと友達の意見とを比べながら聞き、地域の方言の説明をよりよいものに推敲することができる。
- 必要な語句や表現を適切に使って説明文を作ることができる。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|-----------------|--|
| 国語への関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方言のよさを感じ取り、方言辞典を作る活動を通して、進んで生活の中から方言を見つめ直すことができる。 ・ 場と相手に応じた言葉遣いを意識することができる。 |
| 書く能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方言について調べ、説明するための文章を書くことができる。 |
| 話す・聞く能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを分かりやすく話したり、友達の発言を自分の考えと比べ、共通点や相違点などを整理しながら聞いたりすることができる。 |
| 読む能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 段落や章の構成、見出しなどに注目して、方言と共通語の違いや方言のよさを読み取ることができる。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な語句や表現を適切に使って方言の説明文を作ることができる。 |

5 指導計画及び評価 (総時数 7時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 配慮を要する児童への支援 |
|---------|---|---|--|
| 第一 次 | 1 ○方言について知っていることを話し合い、全文を読んで学習計画を立てる。 | (話)生活を振り返り、方言について知っていることや思っていることを話す。 (関)地域方言辞典を作るための学習の見通しを持つ。 | ・「ぶち(広島)」と「ぼっけえ(岡山)」の違いでどんなことを思ったか考えさせる。 |
| 第二 次 | 2 ○例文を読んで、自分が日常どの使い方をするか話し合う。 ・早く行けばよかった ・早く行く <u>と</u> よかった ・早く行っ <u>たら</u> よかった | (話)自分がどの使い方をするか友達に説明する。 (聞)友達の使い方が自分と同じかどうか考えながら聞く。 | ・例文を、より具体的な場面に置きかえて考えさせる。(B児・C児) |
| | 3 ○「ば」「と」「たら」について、東京、大阪及び各地の使い方に違いがあることを読み取る。 | (読)地域によって使い方に違いがあることに気づく。 (読)方言とはどんなもので、どんなときに使われるか理解する。 | ・グラフだけでなく、方言地図も参考にして考えさせる。(C児) |
| | 4 (本時) ○「捨てる」という言葉の方言地図を作り、分布の様子を理解する。 ○方言地図を見て気づいたことをノートにまとめる。 | (書)「捨てる」の方言一覧表をもとに方言地図を作る。 (書・話・聞)方言地図を見て気づいたことをノートにまとめて発表する。 | ・表現方法を記号だけでなく色で分けて塗るように助言する。 ・前時に使った方言地図と比べて共通点や相違点を考えさせる。(B児・C児) |
| | 5 ○方言と共通語の「違い」と「よさ」について読み取る。 | (読)方言と共通語の「違い」と「よさ」について理解する。 (関)場と相手に応じた言葉遣いについて考える。 | ・段落ごとにそれぞれの違いやよさが書かれていることに気づかせる。(B児) |
| 第三 次 | 6 7 ○本文の方言の集め方を参考にして、自分の地域の方言を集め、方言辞典を作る。 ・地域での取材 ・日常会話のメモ ・町史などの引用 | (関)家族に聞くなどして地域の方言について調べる。 (言・書)必要な語句や表現を適切に使って方言の説明文を作る。 | ・転校してきた友達との会話を思い出させる。 ・動詞だけでなく名詞や形容詞についても考えさせる。(B児・C児) |

研究主題との関わり

リーダー学習を進める中で、お互いの考えを交流させることにより、意見をつなぎ合って考えを深めていくことの楽しさが味わえるようにする。

1 単元名 6年「身につけた言葉を振り返ろう(「思い出辞典」を作ろう)」(本時5/8)

2 単元設定の理由

本学級の6年生は男子2人、女子4人の計6人である。国語科の学習では、文章や言語による表現活動に対して以下のような意識を持っている。

| | |
|----|---|
| A児 | 文章を書くことが好きで6人の中では表現力が最も優れている。課題に意欲的に取り組むことができる。 |
| B児 | 文章を書くことは好きだが表現力はやや不十分。課題には意欲的に取り組むことができる。 |
| C児 | 自分の考えになかなか自信が持てず、書く内容や言葉がなかなか思い浮かばないため作文は苦手だが、書き始めると自分の思いを素直に表現できる。 |
| D児 | 書く内容や言葉がなかなか思い浮かばないため作文は苦手だが、書き始めると自分の思いを豊かに表現できる。興味のあることを調べるときは意欲的に取り組むことができる。 |
| E児 | 自分の考えがまとまりにくく、語句の用法に誤りもあるが、話すことよりも書くことが好きで、心に思ったことを文章で表現することができる。 |
| F児 | 書く内容や言葉がなかなか思い浮かばないため文章を作ることは苦手であるが話したり聞いたりする力は身に付いている。また、課題にまじめに取り組むことができる |

また、リーダー学習では、学習リーダーが中心になって学習を進め、互いの考えを発表し合うことで自分たちで学習を進めるように努力をしている。ただ、友達の考えに対して意見を述べ合い、学習内容を深めていく活動はまだ十分とはいえない。

本単元は、思い出に関係のある言葉を集め、その言葉に自分なりの説明をつけて「思い出辞典」を作る活動を行う。その活動を通して、言葉が体験や記憶などいろいろなものと結び付いていることを自覚し、言葉の大切さに気づかせることを主なねらいとしている。また、掲載する言葉についての一人一人の考えや思いを交流させる中で、これまで学んできた「書く、読む、話し合う」という総合的な表現活動を行うことを通して、言葉の学習のまとめとすることができる。このことは、言葉を適切に使い自分の考えを相手によりよく分かるように伝えることのできる「思いをつなぎ合う児童の育成」のために必要な力であると考えられる。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・作った辞典を印刷して各学年に配るという目標を持つことで活動の意欲が持続するようにする。【学習素材の工夫】
- ・言葉を集めるための手がかりとして、過去に書いた作文や写真を自由に見ることができるようにしておく。【学習素材の工夫】
- ・「思い出」に対する友達の説明について、質問や意見を付箋紙にメモ書きして残し、それを手がかりにして友達の考えや自分の考えを確認できるようにする。
- ・お互いの考えを交流させることにより、意見をつなぎ合って考えを深めていくことの楽しさが味わえるようにする。
- ・個に応じた学習活動を細かく設定することで、集中して課題に取り組めるようにする。
- ・事前にリーダー役の児童と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。【リーダー学習の定着】

3 目標

- 自分の6年間の思い出にまつわる言葉を集めることができる。
- 思い出を振り返って言葉を集め、協力しながら辞典作りに取り組むことができる。
- 「思い出辞典」の制作がうまく進むように話し合いを進めることができる。
- 適切な言葉を使って、分かりやすく説明の文章を書くことができる。
- 国語辞典や漢和辞典などの言葉の配列や活字の使い方を辞典作りに生かすことができる。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|-----------------|--|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・項目の作り方や言葉の説明のしかたを工夫しながら辞典作りに取り組んでいる。 |
| 書く能力 | ・具体例などを効果的に使って、読み手の興味を引くような文章を書く。 |
| 話す・聞く能力 | ・話し合いが前に進み、制作がうまく進むように提案や意見交換をしている。 |
| 読む能力 | ・辞典作りの進め方について読み取ることができる。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ・意味の分からない語句について辞書を使って調べることができる。 ・自分の思い出にまつわる言葉を集めている。 |

5 指導計画及び評価 (総時数 8時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 配慮を要する児童への支援 |
|-----|--|--|---|
| 第一次 | 1 ○扉のページを見て学習課題をつかむ。 | (関) 辞典作りに意欲を持ち、積極的に話し合う。 | ・作った辞典を印刷して各学年に配るという目標を持つことで活動の意欲を持続させる。 (C児・D児) |
| | 2 ○学級でどんな辞典を作るかを話し合っって学習計画をたてる。 ・行事による分類 ・用語による分類 等 | (話) どのような辞典にしたいのか自分の考えを発表する。 | |
| 第二次 | 3 ○辞典の作り方を読み取る。 | (読・関) 辞典の作り方を理解して言葉を集める。 | ・国語辞典などの具体物を例に辞典がどのように構成されているか確かめる。 (C児・E児) ・行事の写真に題を付けることでたくさんの言葉が集められるようにする。 (C児・D児・E児・F児) |
| | 4 ○各自が言葉を集めてカードの形にして説明を書く。 | (言・関) 意味の分からない語句について辞書を使って調べる。 (書) 集めた言葉についての説明をカードに書く。 | |
| | 5 ○みんなでカードを読み合い意見交換をする。 (本時) 6 ○説明の文章を推敲する | (話・聞) 友達の意見や提案を聞いたり自分の考えを発表する。 (書) 友達の意見を参考にして推敲をする。 | |
| 第三次 | 7 ○カードを並べ、表紙や目次を付けて綴じ、辞典の形に仕上げる。 | (言) 集めた言葉の選択や配列を理解する。 | ・国語辞典などの具体物を例に辞典がどのように構成されているか確かめる。 ・選んだ言葉の中で一番心に残っている言葉を選ばせる。(E児) |
| | 8 ○制作した辞典を題材にして話し合う。 ・辞典作りで苦労したこと。 ・辞典の中の言葉にまつわる思い出。 | (関・話・聞) 進んで自分の考えを話したり、友達の発表を聞いたりする。 | |

7 本時案 (第二次 4/7))

- (1) 主眼 「すてる」という共通語に対応する方言の分布地図を作ることを通して、気づきをノートにまとめ、方言の分布の様子を理解することができる。
- (2) 準備 日本地図(掛け図)、白地図(プリント)
- (3) 展開

| | | | | |
|---------------------------|---|--|--|--|
| 前時の学習 | | 「～ば」「～と」「～たら」について、日本各地の使い方の違いを読み取った。 | | |
| | 教師の働きかけ・ | リーダーの指示 | 学習活動・内容 | |
| つかむ | ・ | ・学習の準備を確認する。 | 1 「ゴミをすてる」の「すてる」について、普段どのような言い方をするか話し合う。 | |
| 「すてる」に対応する方言の使われ方を調べてみよう。 | | | | |
| ／かんがえる | ○「すてる」の方言にはどのような言い方があるか調べてみよう。 ○「すてる」の分布を地図に表してみよう。 ・表現方法を記号だけでなく色で分けて塗るように助言する。 | ・活動の時間を決めて作業を始める。 | 2 日本各地の「すてる」の方言の一覧表を見て、気づいたことを話し合う。 ・様々な言い方 ・大きく分けると5通り 3 一覧表をもとにして白地図に記号を書き込む。 ・記号の塗り分け | |
| ／つなぎあう | ・前時に使った方言地図と比べて共通点や相違点を考えさせる。(B児・C児) ・気づきを書き終わった児童には、離れた地方で同じ表現が使われる理由について掛け図を見ながら考えさせる。 | L 気づきをノートに書きましょう。 L ノートにまとめたことを発表してください。 L 今日の学習をふり返りましょう。 | 4 完成した分布図を見て気づいたことをノートにまとめ、話し合う。 ・地方ごとの分布 ・隣接地域の似た表現 ・離れた地域の似た表現 ・新たな疑問(山口と東京の表現) 5 今日の学習を振り返る。 | |
| 次時の学習 | | 方言と共通語のそれぞれの「よさ」について読み取る。 | | |

(4) 評価

- ア (書) : 「すてる」の方言一覧表をもとに方言地図を作ることができたか。
- イ (書・話・聞) : 方言地図を見て気づいたことをノートにまとめて話し合うことができたか。

7 本時案 (第二次 5/8))

- (1) 主眼 各自が書いた辞典に載せる言葉の説明を読み合い意見交換をすることを通して、よりよい説明になおすことができるようにする。
- (2) 準備 行事の写真、過去の記録(作文等)、国語辞典
- (3) 展開

| | | | | |
|-------|--|--|--|------------|
| 前時の学習 | 「～ば」「～と」「～たら」について、日本各地の使い方の違いを読み取った。 | | | |
| | 学習活動・内容 | リーダーの指示 | 教師の働きかけ・ | |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 友達のカードを読んで、気づいたことを話し合おう。 </div> | | つかむ | |
| | 1 カードに書かれた言葉を分類する。 ・同じ言葉の説明 ・同じ行事の説明 ・学年別のくくり | ・学習の準備を確認する。 L作ったカードを黒板に貼って、言葉ごとに分類しましょう | ・黒板にカードを貼って全員で話し合いながら分類する。 | ／ |
| | 2 カードに各自が書いた説明を読み合い、気づきを付箋紙で添付する。 ・書き加えてほしいこと ・質問 ・誤字、誤表現の訂正 | L付箋紙に気づきを書いてそれぞれのカードにはりましょう。 | ・よい書き方(表現)と提案(なおすとよいところ、付け加えてほしいこと)で付箋紙の色を変えて書かす。 | かんがえる |
| | 3 付箋紙をもとにして、それぞれの言葉について意見交換をする。 ・書き加えてほしいこと ・質問 | Lそれぞれの言葉について質問や意見がある人は発表してください。 ・分類したまとまりごとに話し合いを進める。 | ・分類したまとまりごとに意見交換をするように助言する。 ・発表に自信が持てない児童には、添付した付箋を見ながら発表させる。 | ／ つなぎあう |
| | 4 友達の意見を参考にしてなおしたほうがいいところを推敲する。 | L友達の意見を参考にして推敲しましょう。 | | |
| | 5 学習のまとめをする。 | L今日の学習をふり返りましょう。 | | |
| 次時の学習 | 友達の意見を参考にして推敲をする。 | | | |

(4) 評価

- ア (言・関) : 掲出された言葉をいくつかのグループに分類することができたか。
- イ (話・聞) : 友達の意見や提案を聞いたり自分の考えを発表することができたか。

研究の仮説

ヒントカードを活用し一人で考えたり、学習リーダーを中心に考えを発表し合いみんなで考えたりすることを通して課題追究の方法を習得していけば、(お互いの考えを交流させ、意見をつなぎ合わせながら、) 子どもたち自身による主体的な学びが展開できるであろう。

1 単元名 5年 三角形と角

2 単元設定の理由

本学級の5年生(男子1人女子2人)は、お互いの考えを述べ合い、協力して課題に取り組むことができる。学習進度に差はあるが全員が理解しようと努力する。また算数科の学習に対して以下のような傾向がある。

| | |
|----|---|
| A児 | まじめにこつこつと取り組むが、身につけた複数の知識を活用して考える問題(いわゆる応用問題)は苦手で、解答を出すためのヒントが必要なことが多い。 |
| B児 | 計算や作図などの学習作業に時間がかかるが、一度理解できると確実に答えを導き出すことができる。 |
| C児 | 論理的な思考に優れ、課題の解決方法をいち早く見つけ出すことができる。学習作業も丁寧で作図や計算などもほとんどミスがない。 |

リーダー学習では、学習リーダーが中心になって自分たちで学習を進めることができる。しかし、お互いの考えを延べ合うだけで終わり、付け加えや質問、反論など、つなぎ合って学習を深める活動は十分ではない。

本単元では、三角形の内角の和が 180° であることを理解し、この知識を活用して三角形の2つの内角が分かっているときの残りの内角や外角の大きさを求めたり、対角線を引くことで多角形の内角の和について考え、実測して確かめたりすることを通して、いろいろな方法で未知の角度を求めることが進んでできるようになることを主なねらいとしている。

そこで、指導にあたっては次の点に留意したい。

- ・ 合同な三角形の敷きつめや分度器を用いた実測などの操作活動を通して、三角形の内角の和が 180° であることが確かめられるようにする。
- ・ 既習事項(180° は直線になる、1周は 360° 、など)が確認できるヒントカードや思考のきっかけとなる(三角形2つを組み合わせて四角形を作る、多角形に対角線を引く、など)ヒントカードを準備することで、「ひとり学び」が円滑に進められるようにする。
- ・ 事前にリーダー役の児童と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。

3 目標

- 三角形の内角の和が 180° であることがわかる。
- 三角形の内角の和をもとにして、多角形の内角の和の調べ方がわかる。

4 評価規準

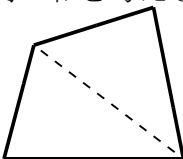
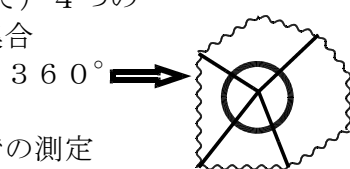
| 観 点 | 評 価 規 準 |
|----------|---|
| 関心・意欲・態度 | ・いろいろな方法で多角形の内角の和の求め方を調べようとしている。 |
| 数学的な考え方 | ・多角形は三角形に分割でき、それを利用して内角の和が求められることに気づいている。 |
| 表現・処理 | ・三角形や多角形の内角の和を求めたり、分かっている情報をもとにして未知の角の大きさを求めたりすることができる。 |
| 知識・理解 | ・三角形や多角形の内角の和の求め方を理解している。 |

5 指導計画及び評価 (総時数8時間)

| | | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 教師の支援 |
|-------------|---|--|---|---|
| 第 一 次 | 1 | ○三角形の内角の和を求め める。 | (関)いろいろな方法で三角形 の内角の和を求めようと している。 | ・具体操作(三角形の敷き つめ)を通して三角形の 3つの角が一直線上に並 んでいることに着目でき るようにする。(全員) ・分度器を使って実測して 180°を確認させる。 (A児) ・二等辺三角形の特徴を思 い出させる。 (全員) |
| | 2 | ・敷きつめ ・実測 ・△内角の和 = 180° | (知)三角形の内角の和が 180 度であることを理解して いる。 | |
| | 3 | ○三角形の未知の角の大 きさを求める。 ・外角 = 残りの2角 | (表)三角形の内角の和が 180 度であることを利用して 未知の角の大きさを求め ることができる。 | |
| 第 二 次 | 4 | ○四角形の内角の和を求め る。 ・4つの角の寄せ集め ・□内角の和 = 360° | (関)いろいろな方法で四角形 の内角の和を調べようと している。 (知)四角形の内角の和が 360 度であることを理解して いる。 | ・四角形に対角線を引いて 考えさせる。(全員) ・四角形をちぎって4つの 角を合わせてみる。 (全児) ・分度器で実測する。 (A児) ・自分の考え方が説明でき るように発表ボードに文 を書かせる。 (A・B児) |
| | 5 | ○多角形の内角の和を求め る。 ・n角形の内角の和 = 180 × (n - 2) | (思)多角形は三角形に分割で き、それを利用して内角 の和が求められることに 気づく。 (知)多角形用語の意味と、 内角の和の求め方を理解 している。 | |
| 第 三 次 | 6 | ○いろいろな四角形のし きつめをする。 ・平行四辺形 | (関)四角形をすきまなく敷き つめる方法を考えようと している。 | ・台紙にいきなり貼らない で、5~6枚並べてみて 考えさせるようにする。 (全員) |
| | 7 | ・台形 ・ただの四角形 | (思)合同な四角形は向きを工 夫して合わせると敷きつ められることに気づく。 | |
| | 8 | ○学習のまとめをする。 | (関)学んだことをもとにして 意欲的に問題を解こうと している。 | |

6 本時案 (第二次 4/8)

- (1) 主眼 四角形の内角の和が 360° であること理解することができる。
- (2) 準備 四角形(操作活動用、掲示用)、組み合わせると四角形になる三角形2枚(ヒントカード用)、分度器、定規、発表ボード
- (3) 学習過程

| | | |
|-------|--|--|
| 前時の学習 | 三角形の内角の和が 180° であることを利用して未知の角の大きさを求めた。 | |
| | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L) | 学習活動・内容 |
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の内角の和が180°であることを確認する。 | <p>1 前時までの学習内容を確認して本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の把握 |
| ／ | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 分度器を使わないで四角形の内角の和を求めよう。 </div> | |
| かんがえる | <p>L 四角形の内角の和が何度になるか考えましょう。できた人はボードに図をかいて説明できるようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のヒントカードを準備する。 ①四角形に対角線を1本引いてみよう。 ②四角形を4つにちぎって内角を合わせてみよう。 ③(組み合わせると四角形になるような2つの三角形を同封して)この2つの三角形を合わせてみよう。 ④分度器で測ろう。 ・早くできた児童には2つ目、3つ目の求め方を考えさせる。 <p style="text-align: right;">(評価ア 観察)</p> | <p>2 操作活動用の四角形に線を引いたりしながら四角形の内角の和を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対角線を引くこと  <ul style="list-style-type: none"> ・(ちぎって)4つの内角の集合 360°  <ul style="list-style-type: none"> ・分度器での測定 |
| ／ | <p>L ボードを黒板に貼ってから自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明の似通っているものごとに分類させる。 ・発表ごとに、付け加え、質問、意見がないかを確認しながら話し合いを進めさせる。 <p style="text-align: right;">(評価イ 発表・ノート)</p> | <p>3 四角形の内角の和の求め方について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対角線を引いての求め方 ・内角を寄せ集めての求め方 ・分度器による実測 |
| まとめ | <p>L 学習のまとめをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表ボード等を利用してポイントの整理をする。 ・整理の終わった児童には練習問題をさせる。 <p>L 学習を振り返りましょう。</p> | <p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントの整理(黒板視写) ・練習問題 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(学習)振り返りカード |
| 次時の学習 | 5角形以上の多角形の内角の和を求める。 | |

(4) 評価

- ア(関心・意欲): いろいろな方法で四角形の内角の和を調べようとしていたか。
- イ(知識・理解): 四角形の内角の和が 360° であることが理解できたか。

研究の仮説

ヒントカードを活用して一人で考えたり、学習リーダーを中心に考えを発表し合いみんなで考えたりすることを通して課題追究の方法を習得していけば、(お互いの考えを交流させ、意見をつなぎ合わせながら、) 子どもたち自身による主体的な学びが展開できるであろう。

1 単元名 6年 図形の合同

2 単元設定の理由

本学級の6年生(男子4人女子2人)は、意欲的に課題に取り組み、学習進度に差はあるが全員が理解しようと努力する。また、算数科の学習に対して以下のような傾向がある。

| | |
|----|---|
| A児 | 消極的なため考えを発表することはほとんどないが、基礎的・基本的な課題や学習内容については、おおむね理解できている。 |
| B児 | 課題解決に向けて熱心に学習に取り組み、自分の考えを積極的に発表する。進んで学習リーダーを補佐することができる。 |
| C児 | 意欲的に学習に取り組み、自分の考えも発表できるが、数学的な考え方が十分でなく、身につけた知識を活用して課題を解決するのが苦手である。 |
| D児 | 意欲的に学習に取り組み、自分の考えを積極的に発表できる。基礎的・基本的な課題や学習内容についてもおおむね理解できている。 |
| E児 | 意欲的に学習に取り組み、基礎的・基本的な課題や学習内容についてもおおむね理解できているが、数学的な考え方が十分ではない。 |
| F児 | 意欲的に学習に取り組み、基礎的・基本的な課題や学習内容についておおむね理解できている。自分の考えを伝えたり友達の意見を理解したりすることが十分にできていない。 |

リーダー学習では、学習リーダーが中心になって自分たちで学習を進めることができる。しかし、お互いの考えを述べ合うだけに終わり、付け加えや質問、反論など、つなぎ合って学習を深める活動は十分ではない。

本単元では、三角形、四角形などの2つの図形がぴったり重なるとき、その2つの図形は合同であるということを理解させる。また、合同な図形では、対応する辺の長さや角の大きさはそれぞれ等しくなっていることを明らかにし、合同の概念を確かにする。さらに、合同な三角形や四角形を作図するための方法を理解して、作図することができるようになることを主なねらいとしている。

そこで、指導にあたっては次の点に留意したい。

- ・定規、コンパス、分度器などを用いた操作活動を通して、合同かどうかを考えさせたり、合同な三角形や四角形のかき方を工夫したりすることができるようにする。
- ・既習事項(三角形や四角形のかき方など)が確認できるヒントカードや思考のきっかけとなる(3辺の長さ、2辺とその間の角、1辺とその両端の角を測ってかくなど)ヒントカードを準備することで、「ひとり学び」が円滑に進められるようにする。
- ・事前にリーダー役の子と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。

3 目標

- 合同の意味や用語を理解し、2つの図形が合同であることを確かめることができる。
- 2つの合同な図形における頂点、辺、角の対応について理解することができる。
- 図形や大きさがきまる要素に着目して、合同な三角形、四角形のかき方を理解し、作図することができる。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|----------|--|
| 関心・意欲・態度 | ・身の回りから合同な図形を見つけようとしている。 |
| 数学的な考え方 | ・図形の形や大きさがきまる要素に着目して、図形を考察している。 |
| 表現・処理 | ・合同な図形をかいたり、対応する辺、角、頂点を見つけることができる。 |
| 知識・理解 | ・図形の合同の意味や性質を理解している。 ・合同な三角形、四角形のかき方がわかる。 |

5 指導計画及び評価 (総時数6時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 教師の支援 |
|-----|--|---|---|
| 第一次 | 1 ○三角形を重ねて、合同の定義を調べる。 ・合同の用語とその意味 | (関) 進んで合同な図形を見つけようとしている。 (知) 合同の意味と用語を理解している。 | ・きちんと重ね合わせる事ができる2つの図形を用意する。 (全員) |
| | 2 ○合同な図形における辺と角の大きさを調べる。 ・対応する辺の長さや角の大きさ ・対応する頂点 | (表) 対応する点、辺、角の大きさを見つけることができる。 (知) 対応する辺の長さや角の大きさは等しいことを解している。 | ・分度器やコンパスを使って調べることができるようにする。(全員) ・重ねることができる図形カードを用意しておく。(C、F児) |
| | 3 ○四角形の合同について調べる。 ・対応する辺の長さや角の大きさ ・対応する頂点 | (考) 四角形の合同を調べる際に、四角形に対角線をひいて、三角形の合同の考え方を摘要できる。 (表) 合同な四角形で、対応する点、辺、角の大きさを見つけることができる。 | ・分度器やコンパスを使って調べることができるようにする。(全員) ・台形、ひし形、平行四辺形、長方形、正方形などを用意しておく。(A、C、E、F児) |
| 第二次 | 4 ○与えられた三角形と、合同な三角形のかき方を調べる。 ・3辺の長さ ・2辺とその間の角 ・1辺と両端の角 | (思) 三角形を決定する要素を考慮することができる。 (表) 合同な三角形をかくことができる。 | ・分度器やコンパスを使って調べることができるようにする。(全員) ・3種類のヒントカードを準備する。(A、C、E、F児) |
| | 5 ○与えられた四角形と、合同な四角形のかき方を調べる。 ・3つの辺の長さ、2つの角の大きさを測ってかくこと ・三角形を2つ組み合わせてかくこと | (思) 合同な三角形のかき方をもとにして、合同な四角形のかき方を考えることができる。 (表) 合同な四角形をかくことができる。 | ・分度器やコンパスを使って調べることができるようにする。(全員) ・2種類のヒントカードを準備する。(A、C、E、F児) |
| | 6 ○「合同な図形」の練習と学習のまとめをする。 | (関) 学んだことをもとにして意欲的に問題を解こうとしている。 | ・学習で使った掲示物(学習の足跡)を掲示する。(A、C、E、F児) |

6 本時案 (第二次 5 / 6)

- (1) 主眼 合同な四角形の作図の仕方を考え、合同な四角形をかくことができる。
 (2) 準備 コンパス、分度器、三角定規、ものさし、発表ボード、四角形の図(掲示用、児童配布用)
 (3) 学習過程

| | | | |
|-------|--|---|------------|
| 前時の学習 | 合同な三角形をかく方法を調べた。 | | |
| | 学習活動・内容 | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L) | |
| | 1 前時の学習のまとめと振り返りをする。 ・練習問題とポイント整理 | L 練習問題を解いて、前時の学習のまとめと振り返りをしましょう。 ・練習問題を解いて、合同な三角形をかく3つの方法を想起させる。 | まとめ |
| | 2 前時までの学習内容を確認して、本時の課題をつかむ。 ・課題の把握 | L 課題を読みましょう。 ・合同な2つの四角形を提示し、1つを外して、位置を調べる頂点に着目させて、めあてをつかませる。 | ／ つかむ |
| | 合同な四角形をかく方法を調べよう。 | | |
| | 3 2つの頂点の位置を決めて、合同な四角形をかく方法を調べる。 ・合同な四角形を作図すること | L 四角形A B C Dと合同な四角形のかき方を考えましょう。できたら画用紙に図をかいて説明できるようにしましょう。 ・底辺を決めて、残りの2つの頂点をどこにすればよいかを予想させる。 ・合同な四角形を作図することができるように、以下のヒントカードを準備する。 ①底辺とその両端の辺の長さとの角の大きさを測ってかく。 ②三角形を2つ組み合わせてかく。 (評価ア 観察) | ／ かんがえる |
| | 4 合同な四角形をかく方法について話し合う ・3つの辺の長さと、2つの角の大きさを測ってかく方法 ・三角形を2つ組み合わせてかく方法 | L 画用紙を黒板に貼ってから自分の考えを発表しましょう。 ・合同な四角形をかく方法の似通っているものごとに分類させる。 ・発表ごとに、付け加え、質問、意見がないかを確認しながら話し合いを進めさせる。 (評価イ 発表・ノート) | ／ つながり |
| 次時の学習 | 合同な四角形をかく方法をまとめた後に、正多角形の定義を調べる。 | | |

(4) 評価

- ア (数学的な考え方) : 合同な三角形のかき方をもとにして、合同な四角形のかき方を考えることができたか。
 イ (表現・処理) : 合同な四角形をかくことができたか。

第5・6学年 国語科学習指導案

指導者 教諭 堀田 浩一

1 単元名 5年「事実と意見を整理して書こう」(本時3/10)

2 単元設定の理由

本学級の5年生(男子3人)は、何事にも積極的に取り組むことができる。学習においてもお互いの考えを述べ合い、協力して課題に取り組み、学習進度に差はあるが全員が理解しようと努力している。また、国語科の学習においては次のような傾向が見られる。

| | |
|----|---|
| A児 | 国語に対する興味・関心が高く、特に話したり聞いたりする力に優れている。 |
| B児 | 話したり聞いたりする力は付いているが、自分の思いを文章で表現する力は十分ではない。 |
| C児 | 落ち着いて考え、正しく読み取ったり、自分の思いを文章で表現する力は十分ではない。 |

本単元では、日頃の生活を振り返り、普段から思っていることや気になっていることを意見として学級の仲間に伝えるために意見文を書くことを主なねらいとしている。そのために、意見とその根拠となる事実を明確にすることや、意見が効果的に表れるように全体の構成を考えて書く力を付けることを目標としている。このことは、自分の考えを相手によく分かるように工夫して伝える力を身に付けることであり、「思いをつなぎ合う」児童の育成のために必要な事項であるとする。

そこで指導にあたっては次の点に留意したい。

- ・日記や1分間スピーチを利用するなどして、学校や家庭での生活の中から意見文の題材を見つけさせることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。
- ・色鉛筆などを使って意見と事実を区別させたり、記号や矢印を使って意見とそれを裏付ける事実を結びつけたりしながら題材メモを整理させることで、効果的に伝わるような文章構成を考えることができるようにする。
- ・完成した意見文を発表し合い、感想や意見を交流させることで、提案したことを生活の中で生かしていこうとする意欲が持てるようにする。
- ・事前にリーダー役の児童と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。

3 目標

- 伝えたいことを見つけ、自分の考えをより良い文章にして、周りの人に伝えようという意欲を持つことができる。
- 段落や章の構成、見出しなどに注目して、自分の考えを相手に伝えるための文章の書き方を読み取ることができる。
- 読み取ったことを生かして、自分の考えを相手に伝えるための文章を書くことができる。
- 友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理することができる。
- 接続詞や必要な語句をを適切に使って文章を作ることができる。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|-----------------|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・自分の意見を文章に書いて周りの人々に伝えようとしている。 |
| 書く能力 | ・意見が伝わるように事実との組み合わせを考えて作文を書いている。 |
| 話す・聞く能力 | ・友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理することができる。 |
| 読む能力 | ・段落や章の構成、見出しなどに注目して、自分の考えを相手に伝えるための文章の書き方を読み取ることができる。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ・接続詞や必要な語句をを適切に使って文章を作ることができる。 |

5 指導計画及び評価 (総時数 10時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 配慮を要する児童への支援 |
|-----|---|--|--|
| 第一次 | 1 ○単元全体への学習意欲と見通しを持ち、学習のめあてを話し合う。 | (関)意見文を書くという意欲を持つ。 (話)日頃の生活を振り返り、思っていることや気になっていることを話したり聞いたりする。 | ・日記や1分間スピーチを利用して学校や家庭での生活の中から意見文の題材を見つけさせることで主体的に学習に取り組めるようにする。 (主にC児) |
| | 2 ○提案したい意見文の題材を決める。 ・生活の振り返り ・班での話し合い ・題材の決定 | | |
| 第二次 | 3 ○提案することを決め、意見の根拠を書き出したメモを作る。 ・メモの書き方 ・意見を持った理由 ・意見と根拠の関係 | (読)効果的なメモの作り方を知る。 (書)意見と根拠(事実)が組み合わせられた、効果的な「題材メモ」を作る。 | ・色鉛筆や記号、矢印等を使って意見とそれを裏付ける事実を結びつけながら題材メモを整理させることで、効果的に伝わるような文章構成を考えられるようにする。 (B児・C児) |
| | 4 ○聞き手に効果的に伝わるような文章の展開を考える。 ・文章構成の確認 ・構想表 | (読)効果的な文章の展開を考えた構想表を作る。 (書)自分の意見が効果的に伝わるような文章で構想表を作る。 | |
| | 5 ○構想表をもとに、事実と意見を組み合わせる作文を書く。 ・文章構成の観点 | (書)序論・本論・結論の中で意見や事実が組み合わせられて伝えたいことがよく分かる作文を書く。 | ・構成がうまくできているかどうかを点検する観点を提示する。(A児) |
| | 6 | | |
| | 7 ○自分の作文を見直し、よりよい作文に仕上げる。 ・推敲の観点 | (言)接続詞や必要な語句をを適切に使って伝えたいことがよく分かる作文に仕上げる。 | ・推敲の観点を提示することで作文の見直しが自分たちで主体的に行えるようにする。 |
| | 8 ○作文の清書をする。 | (関)推敲の観点をもとに自分の作文の見直しをする。 | |
| 第三次 | 9 ○作文を発表したり聞いたりして感想や意見を出し合い、生活に生かす。 ・共通点、相違点 ・相互評価、自己評価 | (関)互いの発表を聞き、進んで自分の考えを話したり友達の発表を聞いたりする。 (話)意見文を発表し合い、感想や意見を交流させることで、互いの考えの共通点や相違点をつかむ。 | ・自分の考えをしっかりと持つために発表者の主張や上手な表現、同意部分、反論など観点をはっきりさせて聞くように助言する。 (C児) |
| | 10 | | |

1 単元名 6年「すぐれた表現を味わおう」(本時3/8)

2 単元設定の理由

本学級の6年生(男子2人 女子4人 計6人)は国語科の学習に対して次のような傾向を持っている。

| | |
|----|---|
| A児 | 話したり聞いたりする力に優れているが、集中力が続かず長文の読み取りがやや苦手である。 |
| B児 | 意欲的に学習に取り組むが、文章に即した読み取りがやや不十分である。 |
| C児 | 熱心に学習に取り組む積極的に発表するが、話す人の考えを聞き取ることや、文章に即して読み取ることがやや不十分である。 |
| D児 | 読み取りや聞き取りはある程度できるが、自分の考えに自信が持てず、すぐに答えを知りたがる。 |
| E児 | 話す人の考えを聞き取ることや、心情や情景の読み取ることにはある程度できるが、集中力が続かず自分の考えが持てない。 |
| F児 | 学習にまじめに取り組むが、学習内容が十分に理解できていない。 |

また、リーダー学習では、学習リーダーが中心になって学習を進め互いの考えを発表し合うことで自分たちで学習を進めるように努力をしているが、教師の働きかけに依存しながら学習に取り組む傾向が強く、友達の考えに対して意見を述べ合い、学習内容を深めていく活動は十分にできていない。

本単元は、文学的文章を題材として「場面の情景や中心となる人物の様子や心情を読み味わう」という力を育て、読解する能力と読み物に興味を持ち幅広く読書しようとする態度の育成を主なねらいとしている。また、登場人物の心情を読み取る活動を通して自分の考えを持ち、友達の考えと比較して共通点や相違点に気づき意見を交換し合うことで学習内容を深めていくことは「思いをつなぎ合う」ことに適している。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・導入段階において辞書を携行させ、分からない語句について自分で調べることを通して、辞書を引く習慣を身に付けるとともに自分で学習を進める姿勢が持てるようにする。
- ・メモ書き箇条書きを多用して思い浮かんだことを見える形で残し、それを手がかりにして読みを深め自分の考えが持てるようにする。
- ・学習活動を細かく設定することで、集中して課題に取り組めるようにする。
- ・登場人物について読み取ったことや自分の考えなどを交流させることにより、つなぎ合って考えを深めていくことの楽しさが味わえるようにする。
- ・事前にリーダー役の児童と授業の流れについて話し合い、自分たちの手で学習が進められるようにする。

3 目標

- 進んで優れた叙述を味わいながら物語を読み取っていこうとする意欲を持てるようにする。
- 登場人物の心の変化を読み取ってノートにまとめられるようにする。
- 友達の考えと自分の考えとを比べながら聞き、共通点や相違点に気づくことができるようになる。
- 場面の情景や人物の行動・心情を表す言葉や表現に着目して、人物の心の変化を読み取ることができる。
- 意味の分からない語句について辞書を使って調べることができる。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|-----------------|--|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・進んで優れた叙述を味わいながら物語を読み取っていこうとする。 |
| 書く能力 | ・登場人物の心の変化を読み取ってノートにまとめられるようにする。 |
| 話す・聞く能力 | ・友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理することができる。 |
| 読む能力 | ・場面の情景や人物の行動・心情を表す言葉や表現に着目して、人物の心の変化を読み取ることができる。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ・意味の分からない語句について辞書を使って調べることができる。 |

5 指導計画及び評価 (総時数 8時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 配慮を要する児童への支援 | |
|-----|-----------|---|--|--|
| 第一次 | 1 | ○単元全体の見通しを持ち、学習計画を立てる。 ・物語の場面の確認 ・個人のめあて ・友達のめあて | (関)物語を読み取っていこうという意欲を持つ。 (話)自分のめあてを発表したり、友達のめあてを聞いて自分との共通点や相違点を確認する。 | ・4月に学習した「この1年の国語学習の目標」を振り返り、自分なりに課題意識が持てるようにする。 (D児・E児・F児) |
| | 2 | ○「Oじいさんのチェロ」のおおまかな内容をつかむ。 ・物語の場面(時代) ・登場人物の様子 | (読)「わたし」の語りという形で進む作品であることや舞台となる町や登場人物の大まかな様子について理解する。 | ・中心となる登場人物の様子や心情の変化について考えることを通して「情景や人物の行動、心情の表現に着目」することが物語の読み取りのポイントであることを理解できるようにする。 (B児・C児) |
| 第二次 | 3 (本時) | ○はじめのころの「Oじいさん」に対する「わたし」の気持ちや「パパやママ」の気持ちを読み取る。 | (言・関)意味の分からない語句について辞書を使って調べることができる。 (読・書)読み取った、登場人物の「Oじいさん」に対する気持ちや「わたし」の心情の変化についてノートにまとめることができる。 | ・メモ書き箇条書きを多用して、思い浮かんだことを見える形で残して、それを手がかりにして自分の考えが持てるようにする。 (D児・E児・F児) |
| | 4 | ○広場で演奏を聴いたときの「わたし」の気持ちの変化を読み取る。 | (読・書)読み取った、登場人物の「Oじいさん」に対する気持ちや「わたし」の心情の変化について発表することができる。 | |
| | 5 | ○絵を描いてドアの下から差し入れたときの「わたし」の気持ちや態度の変化を読み取る。 | (話・関)読み取った、登場人物の「Oじいさん」に対する気持ちや「わたし」の心情の変化について発表することができる。 | |
| | 6 | ○主人公の「わたし」が一番いいことを考える。 ・物語の主題 ・根拠となる文 | (書)根拠となる文を引用しながら物語の主題をまとめることができる。 | |
| 第三次 | 7 | ○「冬きたりなば」のおもしろさについて話し合う。 | (関・話・聞)友達の発表を聞いて、進んで自分の考えを話したり、友達の発表を聞いたりする。 | ・短編小説のおもしろさや作品の紹介をして、興味が持てるようにする。 (A児・E児・F児) |
| | 8 | ○他のショートショート作品を読む。 | (関)自分で進んで本を探して読む。 | ・自分が興味を持っていることに関連のある本を探すようにする。 |

7 本時案 (第二次 3 / 10)

- (1) 主眼 自分の意見とその根拠となる事実を結びつける活動を通して、意見と根拠が組み合わされて分かりやすい題材メモを作る。
- (2) 準備 掛け図 (ワークシートの例)
- (3) 展開

| | | | |
|--------|---|---|--|
| 前時の学習 | 単元全体の見通しを持ち、意見文の題材を決めた。 | | |
| | 教師の働きかけ・リーダーの指示 | 学習活動・内容 | |
| つながりあう | <p>L : 意見文の題材を一人ずつ発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の題材と友達の題材を比較し易くするために題材のメモをとりながら聞く。 ・意見発表会を開くことや意見文集を作ることを確認する。 | <p>1 意見文の題材を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の題材との比較 | |
| ／つかむ | | <p>2 学習課題を確認する。</p> | |
| ／つかむ | <p>藤崎さんのメモを参考にして自分の「題材メモ」を作ろう。</p> | | |
| ／つかむ | <p>○藤崎さんの題材メモを参考にして自分の「題材メモ」を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色鉛筆等を使って、根拠となる事実と意見・感想を区別して分かりやすくする。 <p>評価ア (発表)</p> <p>L : 自分の題材メモを作りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材メモを作るときのポイントを提示して、迷ったときに振り返ることができるようにする。 | <p>3 藤崎さんのメモを参考にしてメモの書き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を持つきっかけとなる事実 ・意見と事実の区別 ・矢印や記号の利用 | |
| ／つかむ | | <p>4 自分の題材メモを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見の根拠となる事実 ・記号等を利用した読みやすいメモ | |
| ／つかむ | <p>L : 題材メモの発表をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が発表の機会を持てるように、題材を一つずつ発表させる。 ・事実と感想・意見の区別を確認しながら聞くようにさせる。 <p>○友達の気づきをもとにメモを修正しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の気づきをもとにしてメモの修正ができるように働きかける。 <p>評価イ (ノート)</p> | <p>5 お互いの題材メモの説明を聞き、気づいたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見に対して不要な根拠の指摘 ・根拠となる事実に対しての新たな意見 | |
| ／つかむ | | <p>6 自分のメモの見直しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の気づきをもとにした題材メモの付加や修正 | |
| 次時の学習 | 伝えたいことが効果的に伝わるような文章の展開を考え、構想表を作る。 | | |

(4) 評価

- ア (読) : 効果的なメモの作り方を読みとれたか。
- イ (書) : 意見と根拠(事実)が組み合わされた、効果的な「題材メモ」を作ることができたか。

7 本時案 (第二次 3 / 8)

- (1) 主眼 「わたし」や周りの登場人物の話や表情を手がかりにして、「Oじいさん」に対する初めの頃の「わたし」の気持ちと「パパやママ」の気持ちに違いがあることを読み取る。
- (2) 準備 提示図 (「わたし」の気持ちのまとめ方)
- (3) 展開

| | | | |
|-------|--|---|--------------|
| 前時の学習 | 「Oじいさんのチェロ」の大まかな内容をつかみ場面分けをする。 | | |
| | 学習活動・内容 | 教師の働きかけ・リーダーの指示 | |
| ／つかむ | <p>1 前時までの学習内容を確認して本時の課題をつかむ。</p> | <p>・情景や人物の行動、心情を表す言葉や表現に着目して、主人公の心の変化を読み取ることを確認する。</p> | <p>つかむ</p> |
| ／つかむ | | | |
| ／つかむ | <p>2 「わたし」が「Oじいさん」をどう思っているのか、文中の表現を根拠にして考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へんなおじいさん ・気味が悪い ・かわいそうな人 | <p>L : 「わたし」の「Oじいさん」に対する気持ちが分かる所をノートに書き出して、「Oじいさん」のことをどう思っているか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと根拠となる表現を結びつけながら考えるようにさせる。 ・課題が早くできた児童には両親が「Oじいさん」のことをどう思っているかを考えさせる。 <p>L : 自分の考えをホワイトボードに書いて発表の準備をしましょう。</p> | <p>かんがえる</p> |
| ／つかむ | | | |
| ／つかむ | <p>次時の学習 広場で「Oじいさん」の演奏を聴いたときのわたしの気持ちの変化を読み取る。</p> | | |

(4) 評価

- ア (読) : 「わたし」やパパやママの「Oじいさん」に対する気持ちを読み取ることができたか。
- イ (読) : 「Oじいさん」に対する「わたし」とパパやママの気持ちに違いがあることを読み取ることができたか。

第5・6学年 国語科学習指導案

指導者 教諭 堀田 浩一

研究主題とのかかわり

リーダー学習を進めることで、互いの考えを交流させ、意見をつなぎ合って考えを深めていくことができるようにする。

- 1 単元名 5年 読み取ったことについて研究しよう（本時5／10）
教材名 『マンガの表現を楽しむ』『マンガを研究しよう』

2 単元設定の理由

本学級の5年生（男子3人女子1人）は、学習進度に差はあるが、協力して課題に取り組み、全員が理解しようと努力する。また、国語科の学習に対して以下のような傾向がある。

| | |
|----|--|
| A児 | 細かな部分の読み落としが時々あるが、まとまりごとに説明文の要点をつかみ、要約文を書くことができる。また、自分の考えを積極的に発言できる。 |
| B児 | 課題を把握し、学習内容を理解するまでに時間はかかるが、概ね要点をつかむことはできる。 |
| C児 | 細かな部分の読み落としが時々あるが、まとまりごとに説明文の要点をつかみ、要約文を書くことができる。苦手であった発表も少しずつできるようになっている。 |
| D児 | 長文を書くことが苦手なため、読み取った内容を表現することは十分ではないが、キーワード・キーセンテンスは概ね把握することができる。 |

本単元では、説明文「マンガの表現を楽しむ」を序論・本論・結論の3つの内容に分けて読み取り、その要旨をとらえる力を育てることができる。また、読み取った「マンガの表現」をもとにして、自分でマンガを描くことや表現方法の具体例を調べることなど、自分なりの課題をもち、追究したことを交流し合い、思いをつなぎ合うことで自分の考えをまとめる力や思いを言葉に表現する力を身に付けることもできる。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・事前にマンガのどんなところが好きかアンケートを行うことで、なぜマンガがおもしろいのかを追究することに興味・関心がもてるようにする。
- ・ワークシートを活用し効率よく学習を進めることで、「マンガの表現の工夫や楽しさ」について考えたり、意見を交流したりする学習にゆとりをもって取り組めるようにする。
- ・自分が興味をもって読んでいる学習マンガを調査の具体例とすることで、より主体的に課題に取り組めるようにする。
- ・学校行事や日常生活など身近なできごとを題材にしてマンガを描くことで、より主体的に課題に取り組めるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

- ・リーダー学習では、学習リーダーが中心になって学習を進め、互いの考えを発表し合い、自分たちで学習を進めることができるが、「間違う」ということに対して抵抗が強く、間違いへの不安が活発な意見交流を妨げる場合も少なくないので、発表の練習を十分にさせる。
- ・まとめの発表の際には6年生も参加することで、多くの意見を交流ができるような機会をできるだけ設ける。

3 目標

- 学習したことをもとに、自分で追究してみたい課題を決め、調べたり考えたり、意見交流をしたりする。
- 根拠となる事実や意見に着目して要約文を書いたり、感想を書いたりする。
- 自分の意図がわかるように話の組み立てを考えて話したり、話し手の意図を考えながら内容を聞いたりする。
- 説明文を、序論・本論・結論に分けて読み取り、まとまりごとの要点をつかむ。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|-----------------|--|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・自分で追究してみたい課題を決めて学習を深めたり、進んで意見交流をしたりする。 |
| 書く能力 | ・根拠となる事実や意見に着目して要約文を書いたり、感想を書いたりする。 |
| 話す・聞く能力 | ・自分の意図が分かるように話の組み立てを考えて話したり、話し手の意図を考えながら内容を聞いたりする。 |
| 読む能力 | ・説明文を、序論・本論・結論に分けて読み取り、要旨をまとめる。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ・意味の分からない語句や漢字について辞書等を使って調べ、理解する。 |

5 指導計画及び評価 (総時数 10 時間)

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 教師の支援 |
|---------|--|---|---|
| 第一 次 | 1 ○単元全体を見通し、2つの教材の概要をつかむ。 | (関)マンガの表現方法について調べようという意欲をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挿し絵よりもマンガの方に楽しさを感じることから表現方法に関心をもてるように働きかける。(A・D児) ・本論の大まかな内容をつかむために、いくつかのまとめりごとに見出しを付けてみたり、要点を箇条書きにしてみたりするように働きかける。(全児) ・ヒントカードや直接指導で、ポイントとなる語句に着目して読み取るように助言する。(B・D児) ・自分の考えや疑問に思ったことは積極的に発言するように促す。(B・C児) |
| 第二 次 | 2 ○全文を通読し、3つの場面に分け、大まかな内容を書く。 | (読)説明文を、序論・本論・結論に分けて概要をつかむ。 (言)意味の分からない語句や漢字について辞書等を使って調べる。 | |
| | 3 ○ことば・ふき出し・記号の効果をまとめる。 | (読)それぞれの効果について本論の中から読み取る。 (話)聞き手に分かるように、根拠となる記述と自分の考えを分けて発表する。 | |
| | 4 ○時間の表し方・視点の変化の効果についてまとめる。 | (読)(書)伝えたかったことを結論の中から読み取り、それについて自分の考えを書く。 | |
| | 5 本時 ○筆者が読者に伝えたかったことをつかみ、それに対する自分の考えを書く。 | | |
| 第三 次 | 6 ○「マンガを研究しよう」を読み、自分の課題を決めて学習計画を立てる。 | (関)「マンガの表現」についての研究方法を決めて学習計画を立てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のマンガ化ではマンガのどの表現を使うと思いが伝わりやすいかを考えさせる。(全児) ・表現方法の具体例探しや新たな表現効果探しでは表にまとめて分かり易くする。(全児) ・6年生にも参加してもらい、より多様な意見がふれさせる。(全児) |
| | 7 ○マンガについてそれぞれの課題を追究する。 ・表現方法の具体例探し | (読)(書)課題の追究のために適切な資料を集め、発表のために分かり易くまとめたり、原稿を準備したりする。 | |
| | 8 ・学校生活の漫画化 ・新たな表現方法探し | | |
| | 9 ○発表の練習をする。 | | |
| | 10 ○自分の調べたことを発表し、質疑応答を通してマンガの表現の楽しさについて考えを深める。 | (話・聞)マンガの表現について、調べたことや工夫したことを発表したり、友達の意見を自分の考えと比べ、共通点や相違点を整理しながら聞く。 | |

研究主題とのかかわり

リーダー学習を進める中で、互いの考えをしっかりと主張させ、意見をつなぎ合うことや考えを深めていくことの楽しさが味わえるようにする。

- 1 単元名 6年 読み取ったことについて自分の意見をもとう（本時5／10）
教材名 『愛を運ぶ人 マザー＝テレサ』『伝記から生き方を見つめよう』

2 単元設定の理由

本学級の6年生は、男子3人である。学習においてはお互いの考えを述べ合い、協力して課題に取り組むことができる。学習進度に差はあるが全員が理解しようと努力する。また、国語科の学習に対して以下のような意識をもっている。

| | |
|----|--|
| A児 | 細かな部分の読み落としが時々あるが、まとまりごとに要点をつかみ、要約文を書いたり、根拠を示しながら自分の考えを書いたりすることができる。 |
| B児 | 時間はかかるが、まとまりごとに要点をつかみ要約文を書いたり、根拠を示しながら自分の考えを書いたりすることが概ねできる。 |
| C児 | 長文を書くことが苦手なため、要約文を書くことは十分ではないが、キーワード・キーセンテンスは概ね把握している。 |

本単元では、伝記をもとに人間としての生き方について深く考えることができる。よって考えたことをブックトークやポスターセッションなど、自分の得意とする方法で伝え合い、意見を交流させ、思いをつなぎ合うことで、読みを一層深めることが可能となる。そのためにも登場する人物の背景をとらえ、心情面の変化に気付かせることで自分の考えをまとめる際の根拠にすることができる。さらに、藤井彦右衛門や宮本常一など周防大島町にゆかりのある人物を題材に加えることで多様な人生観について考えを追究させることもできると考える。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

・マザーテレサの一生の年表を作り、時系列に沿ってエピソードをまとめることで、生き方や考え方の流れ（変化）を分かり易くつかめるようにする。

・ワークシートを活用し効率よく学習を進めることで、「生き方」について考えたり意見を交流したりする学習にゆとりをもって取り組めるようにする。

・伝記から生き方を見つめる学習では、藤井彦右衛門や宮本常一など周防大島町にゆかりのある人物を題材にすることで、より主体的に学習に取り組めるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

・リーダー学習では、学習リーダーが中心になって学習を進め、互いの考えを発表し合い、自分たちで学習を進めることを生かして授業を構成するように努める。

・まとめの発表の際には5年生も参加することで、多くの意見を交流ができるような機会をできるだけ設けるとともに、上学年としての自覚をもって発言ができるように助言する。

3 目標

- 伝記を読んだことについて、発表の方法を工夫して、自分の考えを深めようとする。
- 伝記の人物の生き方や考え方について、自分の感想も交えながら文章にまとめる。
- 伝記の人物について調べたことや考えたことを聞き手に分かり易く発表したり、発表者の意見の共感点（共感できるところ）や相違点を整理しながら聞いたりする。
- 伝記に書かれたできごとや、人物の考え方を場面に沿って読み取る。

4 評価規準

| 観 点 | 評 価 規 準 |
|--------------|--|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・伝記で読んだ内容の理解を、進んで深めようとする。 |
| 書く能力 | ・伝記の人物の生き方や考え方について、自分の感想も交えながら文章にまとめる。 |
| 話す・聞く能力 | ・調べたことや考えたことを聞き手に分かり易く発表したり、発表者の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理する。 |

4 評価規準（続き）

| | |
|-----------------|----------------------------------|
| 読む能力 | ・伝記に書かれたできごとや、人物の考え方を場面に沿って読み取る。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ・意味の分からない語句や漢字について辞書等を使って調べ理解する。 |

5 指導計画及び評価（総時数 10時間）

| | 学習活動・内容 | 評価の視点 | 教師の支援 |
|-----|---|---|---|
| 第一次 | 1 ○単元全体を概観し、学習の見通しをもつ。 ○教材の題にある「愛」について意味を考える。 | (関)伝記を読み取って、考えたことを発表しようとする意欲をもつ。 | ・辞書や自分の経験を基に「つくす」「思いやり」「奉仕」など愛を表すキーワードを考えさせる。 (全児) |
| 第二次 | 2 ○「愛を運ぶ人 マザー＝テレサ」を通読し、テレサの年表をつくる。 | (読)テレサの一生を年齢に沿ってまとめる。 (言)意味の分からない語句や漢字について、辞書等を使って調べる。 | ・1952年のできごとは、短い文で要点をまとめるように助言する。(全児) ・病院、市役所、休憩所など、文中のキーワードに着目してまとめるように助言する。(B・C児) |
| | 3 ○場面に沿って、テレサの考え方や生き方のすばらしさについて話し合う。 | (読)テレサの考え方や生き方について読み取る。 | ・ヒントカードや直接指導で、ポイントとなる語句に着目して読み取るように助言する。(全児) |
| | 4 ・テレサの生き方が決まったときの様子。 ・ベンガル人の死を看取ったときの考え方。 ・ノーベル平和賞を受賞したときの考え方。 | (話・聞)テレサの考え方や生き方、愛について、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりできる。 | |
| | 5 ○テレサの考えていた愛について話し合う。 | (書)テレサの考えていた愛について自分なりの考えを書く。 | ・自分の考えや疑問に思ったことは積極的に発言するように促す。(C児) |
| 本時 | | | ・発表者の意図を全員が理解できるように確認しながら意見交流をするように働きかける。(A児) |
| 第三次 | 6 ○「伝記から生き方を見つめよう」を読み、課題に対する見通しをもつ。 | (関)伝えたい人物や事柄、伝える方法を決めて課題に取り組む。 | ・考えたこと、伝えたいことなどを伝記の中の文からキーワード、キーセンテンスとして抜き出して表や発表原稿にまとめるようにさせる。(C児) |
| | 7 ○ブックトークやポスターセッションのための資料集めや発表原稿作りをする。 | (読)(書)新たな伝記を読んだり、適切な情報を集めたりして、発表のために分かり易くまとめたり、原稿を準備したりする。 | |
| | 8 | | |
| | 9 ○発表の練習をする。 | | |
| 10 | ○それぞれの方法で発表し、人間の生き方についての考えを交流し合う。 | (話・聞)人間の生き方について、調べたことや考えたことを発表したり、発表者の意見を自分の考えと比べ、共通点や相違点を整理しながら聞く。 | ・5年生にも参加してもらい、より多様な意見が出るように配慮する。 (全児) |

6 本時案 (第2次 5 / 10)

- (1) 主眼 マンガの楽しさについてお互いの考えを交流させることで、筆者が読者に伝えたかったことを理解することができる。
- (2) 準備 教材文(掲示用)、ワークシート、短冊用紙(発表用)
- (3) 学習過程

| | | | |
|-------|---|---|----|
| 前時の学習 | マンガの楽しさの要素となる時間の表し方や視点の変化の効果についてまとめた。 | | |
| 流れ | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L) | 学習活動・内容 | 直観 |
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> ・マンガの表現における約束事や表現の工夫を確認させる。 | 1 前時までの学習内容を確認して本時の課題をつかむ。 | |
| ／ | 筆者がマンガの楽しさについて読者に伝えたかったことについて考えよう。 | | |
| かんがえる | <ul style="list-style-type: none"> L 筆者はマンガを楽しむためには、どうすればよいと言っているのか、筆者の伝えたかったことをプリントに書きましよう。 ・筆者の伝えたかったことについて自分はどう思うかも併せて考えさせる。 ・自分の考えは、発表することを前提にまとめさせる。 | 2 結論の部分を読み、筆者の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・マンガの表現に対する工夫や約束事 の理解 ・マンガの読み方 ・筆者の考えに対する自分の意見 | |
| ／ | <ul style="list-style-type: none"> L 筆者の伝えたかったことについて、自分の考えを発表ましよう。 ・筆者の伝えたかったことについて、自分はどう思うか理由を付けて答えさせる。 ・筆者の伝えたかったことの是非について議論させる。 ・意見が分かれな場合は教師が反対意見出すことで揺さぶりをかける。 (評価ア 発表) ・何気なく読んでいるマンガにも工夫がたくさんあることを理解させる。 | 3 筆者の伝えたかったことについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えに対する自分の意見 (筆者への同感) (筆者に対する疑問) ・友達の意見を聞いての新たな発見 | |
| ／ | <ul style="list-style-type: none"> L 学習のまとめをましよう。 ・筆者に対する返事(論評)という形で「マンガの表現」や「筆者の主張」について自分が考えたことを書かせる。 (評価イ ノート) | 4 「マンガの表現」や「筆者の主張」について自分が考えたことを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・マンガの表現の奥深さへの感心 ・マンガの作者への思い ・筆者の主張への同感、疑問 | |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> L 学習を振り返りましよう。 | 5 学習を振り返る。 | |
| 次時の学習 | 「マンガを研究しよう」を読み、自分の課題を決めて学習計画を立てる。 | | |

(4) 評価

- ア (話・聞) : 友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点について質問や感想、意見が言える。
- イ (読・書) : 伝えたかったことを結論の中から読み取り、それについて自分の考えを書くことができる。

6 本時案 (第2次 5/10)

- (1) 主眼 テレサの考えた「愛」についてお互いの考えを交流することを通して、テレサの生き方に対する理解を深めることができる。
- (2) 準備 教材文(掲示用)、ワークシート、短冊用紙(発表用)
- (3) 学習過程

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 前時の学習 | 場面に沿って、テレサの考え方や生き方のすばらしさについて話し合った。 | | |
| 単元 | 学習活動・内容 | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L) | 流れ |
| | <p>マザー＝テレサの考えた「愛」について、お互いの考えを発表し合おう。</p> <p>1 テレサが考える「愛」を表現している語句や文を探し、どのような愛なのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりという愛 ・励ましという愛 ・つくすという愛 <p>2 お互いの考えを発表し、根拠を確かめ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ根拠(行為)で同じ愛のタイプ ・同じ根拠(行為)で異なる愛のタイプ <p>3 話し合ったことをもとにして、テレサの考えた「愛」やテレサの生き方について自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレサの「愛」についての感想 ・自分との比較 ・テレサの生き方についての感想 <p>4 次の課題をつかむ。</p> <p>伝記を読んだり、資料を調べたりして「生き方」について考えよう。</p> | <p>L 自分の考えをプリントに書いてから発表の準備をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる表現に傍線を引かせる。 ・「○○という愛」という形で愛をタイプ分けすることで、「愛」が具体的にイメージできるようにする。 <p>L テレサの考えた「愛」について、お互いの考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ根拠で異なる愛のタイプが出た場合は議論して一つの表現にまとめさせる。 ・テレサの「愛」は『人が幸せに生きるためにつくす』ことにつながっていることに気付かせる。(評価ア 発表) <p>L テレサの考えた「愛」について、学習のまとめをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を書くことでテレサの生き方について考えられるようにする。 ・愛のタイプを手がかりにして、程度の差はあっても自分も同じような行動ができないかどうか考えさせる。(評価イ ノート) <p>L 新しい課題を読んで、ノートに写しましょう。</p> | <p>かんがえる</p> <p>／</p> <p>つながりあう</p> <p>／</p> <p>まとめる</p> <p>／</p> <p>つかむ</p> |
| | <p>5 学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・課題の説明をする。 <p>L 学習を振り返りましょう。</p> | |
| 次時の学習 | 伝えたい人物や事柄、伝える方法を決めて、課題に取り組む。 | | |

(4) 評価

- ア (話・聞) : 友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、「愛」に対する考えの共通点や相違点について質問や感想、意見が言える。
- イ (書) : テレサの考えていた「愛」について自分なりの考えを書くことができる。